

# 第44回

## 日本ケルト学会

### 研究大会 プログラム



日時: 2024年10月19日(土)~20日(日)

会場: 中央大学・多摩キャンパス(八王子市東中野742-1)

Forest Gateway Chuo F310教室 (控室はF307教室)

主催: 日本ケルト学会

共催: 中央大学人文科学研究所・研究チーム「妖精とは何か」、「16世紀における寛容」、「スペイン語圏の歴史と文化」

大会責任者 渡邊浩司(中央大学経済学部)

連絡先 [wkoji@tamacc.chuo-u.ac.jp](mailto:wkoji@tamacc.chuo-u.ac.jp)

- ✦ どなたでもご参加いただけます(会費無料)
- ✦ 会場の都合により、飲み物は各自ご持参ください

## 第44回 日本ケルト学会 研究大会 プログラム

10月19日(土)

- 12:00～ 受付開始
- 12:30 開会挨拶 代表幹事 森野聡子
- 12:30～13:15 研究発表 1 モルガン／デイヴィス訳聖書(1588年／1620年)の言葉遣いの記述：  
モルガン訳聖書のウェールズ語とセイルズベリ訳聖書(1567年)との比較を通して  
発表者 小池剛史 司会 米山優子
- 13:15～14:00 研究発表 2 アイルランド民話における妖精と死者との関係性  
発表者 高木朝子 司会 岩瀬ひさみ
- 14:15～15:00 研究発表 3 ウェールズにおける音楽教育カリキュラムの変遷とアイデンティティ  
発表者 林更紗 司会 小池剛史
- 15:00～15:45 研究発表 4 2022年にブルターニュ博物館で開催された展覧会 *Celtique?* について  
発表者 梁川英俊 司会 平島直一郎
- 16:00～17:15 講演 ジョーゼフ・キャンベルとアーサー王神話——『聖杯の神話』をめぐる  
講演者 斎藤伸治
- 17:30 懇親会 (中央大学多摩キャンパス1号館3階・教職員食堂)

10月20日(日)

- 10:00～ 受付開始
- 10:30～11:15 研究発表 5 異界から得た医療の知識  
発表者 岩瀬ひさみ 司会 辺見葉子
- 11:15～12:00 研究発表 6 J. R. R. トールキンのエルフ語における音韻変化と政治的ナラティブ  
発表者 辺見葉子 司会 森野聡子
- 12:00～12:15 総会
- 12:15～13:15 昼食
- 13:15～16:00 フォーラム・オン 国際民話話型 (ATU) 910B型から見た『グラアルの物語』とその類話  
司会・趣旨説明 渡邊浩司
- 発表 1 『エヴロウグの息子ペレディル』における「聖杯城」シーンの位置づけ  
発表者 森野聡子
- 発表 2 母親、グルネマンツ、トレフリツェントによる教育  
—ヴォルフラム『パルチヴァール』の主人公に与えた影響  
発表者 渡邊徳明
- 発表 3 『ルーオドロープ』とクレティアン・ド・トロワ作『グラアルの物語』  
発表者 渡邊浩司
- 16:00 閉会の辞 大会責任者 渡邊浩司

## 講演

### ジョーゼフ・キャンベルとアーサー王神話——『聖杯の神話』をめぐって

#### Joseph Campbell and the Arthurian Myth

講演者: 斎藤 伸治  
(岩手大学 教授)

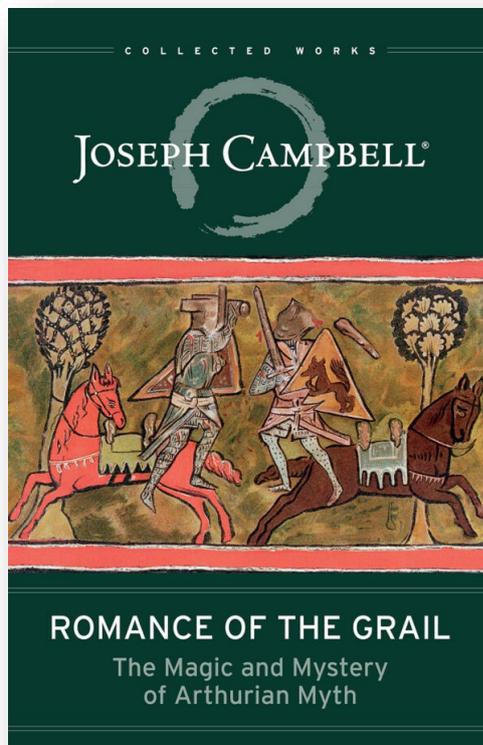
20世紀を代表するアメリカの比較神話学者ジョーゼフ・キャンベル（1904-1987）のアーサー王神話研究について考察する。

アイルランド系のアメリカ人だったキャンベルは、ケルト的伝統に属するこのアーサー王伝説を通じて、自身とケルト的精神との関わりを理解するようになっていったとされ、特に聖杯伝説は、彼の神話学研究の出発点となったテーマだった。コロンビア大学に提出された修士論文は、聖杯伝説の重要テーマである「荒地」の起源の問題に関係する、「災いの一撃」(the Dolorous Stroke) が扱われていた（指導教官の1人が著名なアーサー王研究家であったロジャー・S・ルーミス）。そして、その後の彼の比較神話学研究の拡がりの中でも、このアーサー王研究はその中心的な問題であり続けたのである。さらにまた、キャンベルの考えでは、アーサー王伝説、特に聖杯伝説は、真の意味でのヨーロッパ（「個人」重視のヨーロッパ）の始まりを示すものだった。何をどう探せばいいのか全くわからないまま、未知の目的に向かって、予感と憧れを抱きつつ、ひたすら努力を重ねていく聖杯の英雄の姿——キャンベルのみるところ、これこそが近代ヨーロッパ世界の偉大な神話だったのである。

講演では、昨年刊行された『聖杯の神話——アーサー王神話の魔法と謎』（人文書院）に触れながら、キャンベルの比較神話学の全体的な特徴に言及しつつ、彼のアーサー王神話、聖杯神話に対する考え方をみていきたい。



Wikimedia Commons



国際民話話型 (ATU) 910B型から見た『グラアルの物語』とその類話

**Le Conte du graal de Chrétien de Troyes et les récits médiévaux qui en dépendent : essai de comparaison à partir du conte 910B du catalogue international ATU**

中世ヨーロッパで人気を博した「聖杯伝説」の出発点となったのは、クレティアン・ド・トロワの遺作『グラアルの物語』(1181年頃)である。この作品に登場する食器「グラアル」は、後にキリストの聖血を含む「聖杯」と解釈されたため研究者たちの関心をひき、その起源についてはさまざまな説が出されてきた。しかし『グラアルの物語』での「グラアル」への言及はごくわずかであり、この食器が作品の中心であるわけではない。この作品を正しく理解するためには、作品の骨格となっている話型に目を向ける必要がある。

作者のクレティアンはプロローグで、「グラアル」についての「民話(コト)」を韻文で語ってみると宣言しているが、この民話は国際民話話型カタログ(ATU)の910B「主人の教えを守る」に相当すると考えられる。それは複数の忠告をもらった主人公が、異なる場面でそれぞれの忠告を守り、大団円を迎えるという話型である。

今年のフォーラム・オンでは、クレティアンの『グラアルの物語』との直接の影響関係が指摘されてきた中世ウェールズの『エヴロウグの息子ペレディルの物語』と、ヴォルフラム・フォン・エッセンバハが中高ドイツ語で著した『パルチヴァール』にATU910B型の構成要素がどの程度反映されているかを検討する。さらに、この話型の現存最古の例と考えられる中世ラテン語作品『ルーオドリプ』にも触れることにしたい。

(文責: 渡邊浩司)



*Perceval recevant une épée des mains du roi Pescheor, BnF Français 12577, fol. 18v. (c.1330)*

Wikimedia Commons

『エヴロウグの息子ペレディル』における「聖杯城」シーンの位置づけ

The Structural Significance of the ‘Grail Castle’ Scene in *Historia Peredur fab Efwrawg*

発表者：森野 聡子  
(静岡大学)

中期ウェールズ語による散文物語、通称「マビノギオン」に含まれるアーサー物語のうち、大陸ヨーロッパの騎士道ロマンスの影響が色濃いことから「三つのロマンス」と呼びならわされる三篇がある。これらはいずれもクレティアン・ド・トロワの韻文ロマンスと類似しており、両者の関係についてさまざまな議論が行われてきた。中でも『エヴロウグの息子ペレディル』は、クレティアンの『グラアル物語』に対応する「聖杯城」のシーンを含んでおり、聖杯ロマンスの起源や発展という観点からも注目されることが多い。一方、発表者は、ウェールズ語のアーサー王物語は、ウェールズ固有のアーサー伝承の発展形として読むべきであり、三篇の構造はクレティアンのロマンスとは異なるイデオロギーにのっっているとする見解をとってきた。今回の発表では、ウェールズのペレディル物語における「聖杯城」のシーン及び「忠告を守る」というモチーフが果たす役割を、語りの構造という観点から考察する。

母親、グルネマンツ、トフリツェントによる教育

——ヴォルフラム『パルチヴァール』の主人公に与えた影響

Die Erziehung von der Mutter, Gurnemanz und Trevrizent  
- ihre Auswirkungen auf Parzivals weiteren Lebensweg

発表者：渡邊 徳明  
(日本大学)

クレティアン・ド・トロワの未完の『グラアルの物語』では、主人公ペルスヴァールに忠告を与える人物として、母親、ゴルヌマン・ゴオール、伯父の隠者が順に登場する。これと呼応するかのように、『グラアルの物語』を継承したヴォルフラム・フォン・エッシェンバハの『パルチヴァール』(中高ドイツ語、13世紀初頭成立)では、母親ヘルツェロイデ、グルネマンツ、隠者トフリツェントが順にパルチヴァールに教え諭している。本報告では、それぞれの場面を比較し、『パルチヴァール』において3人による教育が主人公に与えた影響について考察する。

『ルーオトリーブ』とクレティアン・ド・トロワ作『グラアルの物語』

*Ruodlieb et le Conte du graal de Chrétien de Troyes*

発表者：渡邊 浩司  
(中央大学)

中世ラテン語で書かれた『ルーオトリーブ』(1170年頃)は、現在世界中で見つかった ATU910B 型の民話の中で最古の作例である。テーゲルンゼー修道院で発見されたこの作品を伝える主要写本は、長さの異なる 18 の断片をつなぎあわせたものであり、主人公ルーオトリーブは 10 年間仕えた大王のもとを離れ、帰郷するときに大王から 12 の忠告をもらっている。この作品をクレティアン・ド・トロワ作『グラアルの物語』と比較すると、「忠告の民話」という骨格の他にも、2人の主人公には、貴族の生まれ、寡婦の息子、生来の才能、指南役との出会いといった数多くの共通点が認められる。クレティアンは庇護者フランドル伯フィリップから渡された「原本」を韻文で語っているが、この「原本」と『ルーオトリーブ』の作者に着想を与えた作品は、いずれも中世ラテン語で書かれた ATU910B 型に属する民話だと推測できる。

## 研究発表 1

モルガン／デイヴィス訳聖書(1588年／1620年)の言葉遣いの記述:

モルガン訳聖書のウェールズ語とセイルズベリ訳聖書(1567年)との比較を通して

**Disgrifiad yr iaith yn y cyfieithiad Beibl gan William Morgan a John Davies:  
gan ei chymhariaeth â'r iaith yn y cyfieithiad gan William Salesbury (1567)**

発表者: 小池剛史  
(大東文化大学)

近代において聖書のウェールズ語訳の歴史的な出来事は、ウィリアム・モルガンによる全訳(1588年)およびジョン・デイヴィスらによる改訂(1620年)であろう。モルガンは、ウィリアム・セイルズベリらによる新約聖書訳および詩編訳(1567年)を踏襲しつつ大規模な改訂を行った上で、旧約聖書の翻訳を行っている。モルガン訳では、セイルズベリ訳聖書のウェールズ語に加え、当時の詩人階級の間に浸透していた厳格韻律詩の伝統を受け継いだ言葉遣いが用いられ、それは現代文章ウェールズ語の基盤となったとされている。

2023年度研究大会でのフォーラム・オンにおいてセイルズベリ訳の中の『マルコによる福音書』一部をモルガン、デイヴィス訳聖書の対象箇所と比較対照したが、今研究発表では比較対照の範囲に新約聖書の他の書簡や詩編も含め、モルガン訳聖書におけるセイルズベリ訳の改訂のポイントをより明らかにすることで、一般的に「格調高い」と言われるモルガン訳聖書の言葉遣いの特徴をさらに浮彫にしたい。

## 研究発表 2

アイルランド民話における妖精と死者との関係性

**Relationships between Fairies and the Dead in Irish Folktales**

発表者: 高木朝子  
(熊本高等専門学校)

アイルランドの民話で妖精が登場する話には、妖精による拉致・取り換え子の話がある。拉致の話は、妖精に人が連れ去られ、その代わりにしばしば偽物の死体が残され、この世では死んだように見せかけて実際は妖精の世界で生き続けているというものである。また、取り換え子の話は、偽物の死体ではなく、本人に似ているが醜く泣き叫び手のかかる赤ん坊や、具合が悪く回復しない病人を残す。

アイルランド民話には取り換え子の話も少なくないが、連れ去って偽死体を残す話は非常に多い。また、拉致されて妖精の世界に行くとそこにはすでに拉致されて妖精と共に生活している人がいて、元の世界に戻れるように手助けをする話や、拉致されて死んだことになっていたが人の世界に戻ってくる話がある。

このように人が妖精に拉致されることがこの世では死を意味するような話の頻度の高さから、人々の思い描く妖精像と死者像が緊密な関係にあることは確かである。よって本発表では妖精と死者との関係性に焦点をあて、アイルランド民話における妖精像の一側面およびその起源について考察したい。

### 研究発表 3

## ウェールズにおける音楽教育カリキュラムの変遷とアイデンティティ The Welsh Curriculum of Music Transition and Identity

発表者：林 更 紗  
(東京大学 教育学研究科)

ウェールズは、1960年代にウェールズ教育政府局が設立されて以来、問題が起こるたびに対応する形で、カリキュラムが枝分かれしてきた歴史がある。1988年教育改革法では、イングランドとウェールズ国内にあるすべての学校に対して、ナショナル・カリキュラムという法定カリキュラムの要件が制定されたのだが、その両国共通の枠組みは文化的・言語的背景をもたらし、やがて時間が経つにつれて二国間を分断していった。しかし、1999年にウェールズ教育政府局からウェールズ議会に教育の権限が移管されたことで、教育における問題については最大の自治権が与えられた。1988年以来、ウェールズでは2020年に発表された最新のカリキュラムである『サクセスフル・フューチャーズ (Successful Futures)』を除いても3回、公立学校におけるカリキュラムが見直されている。

しかし、我が国でのイギリス教育カリキュラム研究の分野ではイングランドを中心に論じられてきており、ウェールズに特化したカリキュラム研究はなされていない。本発表は、ウェールズにおけるカリキュラム発展の一般的理解を与えることを目的とする。まず、ウェールズ独自のカリキュラムの構成と発展の歴史について概説する。次に、カリキュラム統合における国際的な傾向について述べる。最後に、ウェールズにおける音楽教育のアイデンティティの変化について論じる。

### 研究発表 4

## 2022年にブルターニュ博物館で開催された展覧会 *Celtique?* について À propos de l'exposition *Celtique?* au Musée de Bretagne en 2022

発表者：梁 川 英 俊  
(鹿児島大学)

2022年3月から12月までレンヌのブルターニュ博物館で開催された展覧会 “*Celtique?*” は、ブルターニュのメディアを大きく賑わす出来事になった。まず展覧会の推薦人となっていたブルターニュの代表的な歌手アラン・スティーヴェルが、その内容の客観性に疑問を呈して5月に推薦人を降りると、6月にはレンヌ第2大学教授ロナン・ル・コアディックが展覧会の偏向性を批判する声明を自らの Facebook に発表した。事態を受けて、その年のロリアンのインターケルト・フェスティバルでは、8月4日の初日に “Bretagne...Celtique!” という展覧会への返答ともいべきタイトルの5時間を超えるシンポジウムが、スティーヴェルをゲストに開催され、地元の学者が発表した他、ブリテンの考古学者バリー・カンリフがビデオ出演した。8月には同じレンヌ第2大学ブルトン語科教授エルヴェル・ビーアンが展覧会への不賛同を表明し、10月には同大学の歴史研究者30名も連名で展覧会に関する意見を公表した。展覧会のカタログの刊行も、執筆者に辞退者が出て大幅に遅れた。

この展覧会はなぜこれほど大きな混乱を引き起こしたのか？ 本発表ではその内容について検討した上で、展覧会をめぐる一連の出来事を時間軸に沿って整理し、この騒動の理由と背景等を考察してみたい。

## 研究発表 5

### 異界から得た医療の知識

#### Supernaturally Obtained Medicinal Knowledge

発表者：岩瀬 ひさみ  
(日本ケルト学会会員)

「河童の妙薬」と一般に呼ばれる民話が日本の各地にあり、河童から教わった製法を元に製造したと称する薬が実際に売られていた。医療の知識を不思議な存在から得たという民話は他の地域にもある。スコットランドでは「白い蛇の肉 (ATU673)」型の話、アイルランドでは「波に投げたナイフ」型の話、ウェールズでは「湖の妖精」型の話が、それぞれ特定の実在の医療者の家系と結びついている。物語の生成という観点からすれば、医療者の家系の権威づけに異界から知識を得るという話を利用していると考えられる。

## 研究発表 6

### J. R. R. トールキンのエルフ語における音韻変化と政治的ナラティブ

#### Phonetic Change and Political Narrative in Tolkien's 'The Shibboleth of Fëanor'

発表者：辺見 葉子  
(慶應義塾大学)

本発表では J. R. R. トールキン晩年 (1986年頃) のエッセイ 'The Shibboleth of Fëanor' を取り上げる。これはトールキンのエルフ語の一つ Quenya に見られる /b/ (無声歯摩擦音[θ]) から /s/ へという音韻変化をめぐる問題について論じたものである。『シルマリルの物語』などで語られるトールキン作品の神話時代、神々の招集に応じて Middle-earth から神々の住まう「至福の地」へと赴いたエルフ達の言語 Quenya は、Vanyar 族の Vanyarian と Ñoldor 族の Ñoldorin に大別される。Fëanor 率いる Ñoldor のエルフたちは後に神々の制止を振り切り Middle-earth へエグザイルとして戻るが、トールキンはこの特定の /b/ から /s/ へという Ñoldorin における音韻変化は、/b/ の発音が広く使用される Sindarin がエルフの共通語となっている Middle-earth へのエグザイル以前に、「至福の地」で起きたものであったと分析する。Fëanor が /b/ を一種の 'shibboleth' として用いたために、政治的な様相を帯びたのだと説明するのだ。エルフ語の音韻変化の政治的ナラティブの観点からの解釈について考察したい。

議題

1. 2023年度決算報告および監査報告
2. 2024年度予算について
3. 会則の改訂について
4. その他

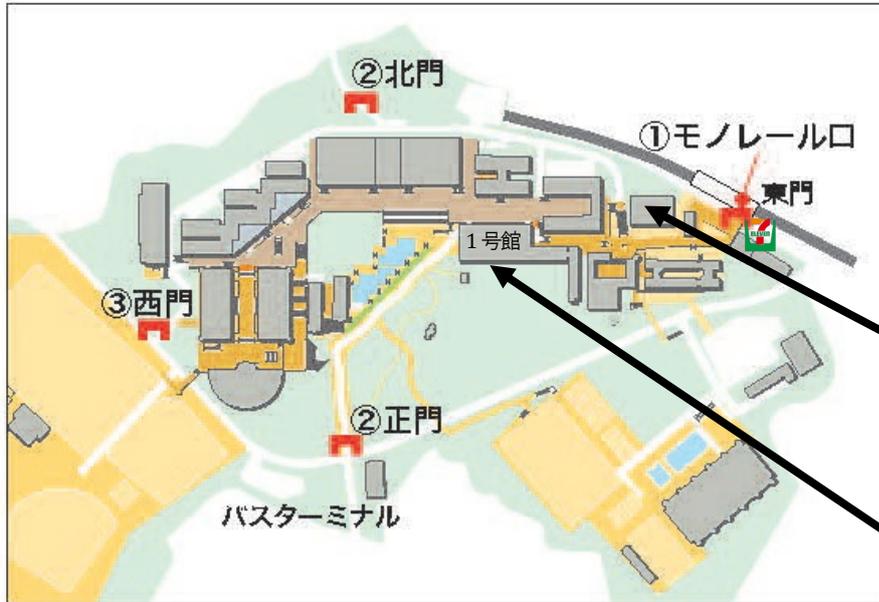
報告

1. 来年度の研究大会について
2. 来年度からの東京研究会の開催について
3. その他

## 会場案内

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

中央大学・多摩キャンパス Forest Gateway Chuo F310教室（控室はF307教室）



多摩モノレール駅を出たところにコンビニ(セブンイレブン)があります

Forest Gateway Chuo はモノレール駅を出て東門からキャンパスに入り、すぐ右側の建物です

懇親会の会場は 1 号館 3 階の教職員食堂です

### ■交通アクセス

多摩都市モノレール「中央大学・明星大学」駅 直結

- ・ 多摩モノレールは下記の駅から接続しています。
- 西武拝島線「玉川上水駅」
- 京王線「高幡不動駅」
- 京王相模原線「京王多摩センター駅」
- JR 中央線「立川駅」
- 京王動物園線「多摩動物公園駅」
- 小田急多摩線「小田急多摩センター駅」

- ・ 京王線「多摩動物公園」駅 徒歩 10 分
- ・ JR 中央線「豊田」駅 バス(南口のりば)15 分/バス停「中央大学」下車
- ・ 京王線・小田急線「多摩センター」駅 バス(13 番バス停)12 分/バス停「中央大学」で下車

